

No.74 contents

- 2 第103回二科展を迎えて
- 3 〈絵画〉総評 受賞作品
- 4 〈絵画〉受賞作品一制作の視点 第103回二科展 受賞者一覧
- 5 〈絵画〉新会員紹介 第103回二科巡回展 日程
- 6 〈絵画〉103回展会場から一私の選ぶ作品寸評
- 8 〈彫刻〉総評 新会員紹介
- 9 〈彫刻〉受賞作品一制作の視点 受賞作品寸評
- 11 熊本震災復興支援活動報告について
- 12 二科ショップ・チャリティー報告 2019春季二科展 選抜出品予定者
- 12 event memo(オープニングセレモニー・授賞式・懇親会・作品研究会
ギャラリートーク・ナイトミュージアム・コラボ展示)
- 14 〈写真部・デザイン部〉総評
- 15 絵画部の展示と出品の誘い 出品ガイド
- 16 計報 平成30年度地域文化功労者表彰 トピックス
事務局だより 2019春季二科展 日程 編集後記



秋季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



103RD NIKA ART EXHIBITION 2018



審査から受賞作まで、今回も順調に決まった。また展覧会も、会友の二点展示を増やしたこと、若い作家の室やコラボ展示の充実などの効果もあり、成功裡に終えることが出来たようだ。入場者は96、559人。多くの公募団体が厳しい運営を強いられるなか、昨年より5、059人増えている。改めて各担当者の尽力に感謝したい。

成功裡に、これから

絵画部 総評

中原史雄

さて、会場をゆっくり見て廻り目に留まった作品を幾つか。
上野の森美術館奨励賞「春の恵みⅠ」吉元かつこ。育てているキャベツ一個を俯瞰で描いた。瑞々しい色彩、華の形や陰影の捉え方もいい。特選「ころぶし山Ⅱ」岡山芳彦、独特の混色による描き方、見慣れた景色ならではの光の表現に魅せられた。共に暮しに根差した視点で説得力を感じた。次に、表現を見事に変化された会友推挙の二人。「海の詩Ⅱ」筒井通子、永い間ごく普通に船溜りを描いていたが、船底の赤のゆらぎに絞って造形化、今回のイメージ世界にまで拡げている。「ビックキャット」久田千恵子、伊藤若冲に感化され、鳥などの再構成を試みたが如何にも若冲、ところが、おおかでフラット、ユーモラスでもある画面を創りあげた。共に見事。他にも気になる作品があるが、次の展開を楽しみにしている。

国立新美術館の壁面に今年展示された1、265点、その多数の作品のなかで、自作がどう見えているか。少なくとも、好きなテーマを慣れた手法で描くだけでは、存在感は示せない。無やみに頑張っても、絵は硬くなり画面はリズムを欠いてしまうのだろう。
そもそも絵画表現とは心の象（かたち）を具現化するもの、つまり、想像を創造に変えること。自分の想いを伝えるためには何が必要か、よく考えてから描きはじめること。また、計画どおりにだけではなく、偶然も取り込むぐらいの柔軟さ、あと大切なのは、突き抜けようとする勇気なのだろう。
無事終えた103回展だが、いろいろ課題もある。その一つが懸案の審査。すべて多数決では平均的な作品の展覧会になってしまふ。私たちは、「創り手」の集まりなのだから、妙な魅力も掬い上げる眼と手立てが必要。あくまで拳手を基準にしながら。
煙たい人、煩わしい存在が居ない今の二科会、大切なものも抜け落ちてきた気がしてならない。



■上野の森美術館奨励賞
春の恵みⅠ S80 吉元 かつこ



■バリ賞 Reflectors 4 F100
小原 禎二



■二科賞 リキッドⅢ S80 山口 博司



■二科新人賞 なみねZ F100
菊島 ちひろ



■損保ジャパン日本興亜美術財団賞
林橋のファンタジー-L F100 畠中 富雄

第103回二科展 受賞作品



絵画部会員 審査室にて



九月五日、北は震災、四国、関西は台風と重なりながらも無事初日を迎えられることは、幸いであった。災害に見舞われた方々に心よりお見舞い申し上げます。出品者数はやや減少したが、四部共若者が活躍を見せてくれたのがよかった。
コラボ展の評価は益々盛んで四部の協力の強さを示した。外国の方々の鑑賞者も多くなり今後が楽しみです。

ただ絵画部の新会員には、頑張ってもらいたい。2、3年経過の会員たちの低迷ぶりはどうしたことか。今から自分はこのスタイルでいいかなんて、甘っちょろい考えが充満し、スタイルにこだわり、潑刺した改革の精神が欠けている。スタイルなんてものは、生存中は考えず、飽くなき追求を続ける結果として、その画家の作となるのであるから、次から次へと変革を試みるべきである。各支部中堅会員の活躍は会として心強い。今後も続けてお願いします。最後に災害列島に、災いと、戦争の起きない平和が永遠に続くことを願いたい。

第103回二科展を迎えて

田中 良



絵画部会場 第1室



■内閣総理大臣賞 エッセイ '18-8 F130 黒川 彰夫

受賞作品
——制作の視点

内閣総理大臣賞

黒川 彰夫

ある光景を単純化した作風を続けています。それが、今では具象形体は消え、抽象的な色面の構成になり、単純化した形がそれぞれに重なり合い、色彩のハーモニーを奏で、新たな空間を造り出しています。ソフトな色彩の織りなす情景に心の安らぎを求めています。

東京都知事賞

須藤 愛子

創作の場に、男も女も年齢もない。あるのは心の健やかさだと思う。ただし、絵とは凄い。紙めてかかるとぐざりとやられる。宥めても押んでもなかなか云うことをきいてくれないこの手強い生き物。この難解にして愛おしむべき絵画への遥かに遠い修行の道をこれからも一途に歩んで行きたい。



■東京都知事賞 Le Vent 194×324 須藤 愛子

第103回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞

黒川 彰夫(滋賀)

文部科学大臣賞

安田 正子(神奈川)

東京都知事賞

須藤 愛子(神奈川)

(絵画部)

二科賞

山口 博司(長崎)

パリ賞

小原 禎二(神奈川)

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

島中 富雄(大阪)

上野の森美術館奨励賞

吉元 かつこ(鹿児島)

会員賞

石田 勝己(滋賀)

北村 美佳(滋賀)

高木 和子(千葉)

高松 良幸(広島)

会友賞

川畑 清美(鹿児島)

木村 民治(千葉)

後藤 寿美子(熊本)

高木 陽(神奈川)

津田 佐千子(石川)

縄井 かつみ(神奈川)

星野 敦郎(新潟)

的場 五十彦(京都)

三津川 好則(滋賀)

柳澤 綾子(京都)

有澤 英子(石川)

井川 誠一(大阪)

池杉 拓海(神奈川)

糸曾 ひろこ(東京)

稲田 泰樹(静岡)

太田 臣一(東京)

大西 敏志(神奈川)

大西 正昭(福岡)

岡山 芳彦(茨城)

加藤 弘子(埼玉)

須田 ひろ子(山梨)

中澤 純代(東京)

松永 長信(熊本)

森泰 秀(佐賀)

二科新人賞

菊島 ちひろ(山梨)

新人奨励賞

石毛 穂乃佳(千葉)

大槻 美菜実(茨城)

大原 郁香(広島)

石本 穂乃佳(千葉)

伊藤 真理子(岩手)

稲生 由美子(東京)

佐藤 英行(神奈川)

高見 愛(熊本)

村山 成夫(新潟)

山口 博司(長崎)

吉金 幸枝(東京)

会友推薦

石井 晶子(神奈川)

上田 有見子(大阪)

大野 久四郎(栃木)

葛西 裕子(神奈川)

菊島 ちひろ(山梨)

木村 隆行(愛知)

佐治 登茂子(福島)

芝田 満江(神奈川)

鈴木 文明(東京)

筒井 通子(奈良)

中野 誠(鹿児島)

中野 誠(鹿児島)

久田 千恵子(愛知)

二科賞

該当者なし

ローマ賞

町川 和司(香川)

彫刻の森美術館奨励賞

澤田 志功(埼玉)

会友賞

工藤 直(秋田)

林 一平(石川)

会友賞

長谷川 登(東京)

藤沢 恵(埼玉)

町田 至(山形)

特選

大坪 義武(静岡)

小野寺 加那(東京)

柴崎 益代(群馬)

新人奨励賞

玉田 真理(神奈川)

会員推薦

千葉 伸子(千葉)

本多 紀朗(大阪)

会友推薦

古森 清五郎(新潟)

長谷川 聡(神奈川)

本田 俊朗(北海道)

与島 雪(富山)

第103回
二科巡回展

◆京都展

平成30年10月2日

～10月7日

京都市美術館別館

◆大阪展

平成30年10月30日

～11月11日

大阪市立美術館

◆広島展

平成31年1月15日

～1月20日

広島県立美術館

県民ギャラリー

◆鹿児島展

平成31年3月10日

～3月17日

鹿児島県歴史資料センター

黎明館

◆福岡展

平成31年3月19日

～3月24日

福岡県立美術館

絵画部 新会員紹介



石崎 琇子



紫陽花の組曲



稲生 由美子



いつまでもここに



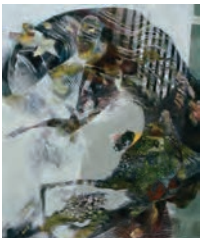
石本 香織



Dance Against Time



伊藤 真理子



カタルシスB

色彩の調和を重視し、色作りを楽しみ、苦しみながらキャンバスと格闘しています。画面の動きと奥行き表現が課題です。

第83回 特選／第93回 会友推薦

第84回 特選／第86回 会友推薦

第80回 特選／第82回 会友推薦

第99回 特選

第100回 記念賞・会友推薦

第101回 会友賞／第103回 会員推薦



漆黒の海



佐藤 英行

私の仕事は自然をテーマにスケッチから入る。白いスケッチブックが真っ黒になるまでのデッサン。目に見えない物の心をさがして抽象表現。

第90回 特選／第94回 会友推薦

第96回 新人奨励賞／第97回 会友推薦

第99回 二科賞／第103回 会員推薦

第101回 会友賞／第103回 会員推薦

第100回 記念賞・会友推薦

第101回 会友賞／第103回 会員推薦

第102回 特選／第97回 会友推薦

103回展会場から——私の選ぶ作品寸評

荻原 豊子 コンポジションⅢ
F100

中根 忠俊 霧永 F100



大槻 美菜実 T & Cloud F100

居住する街の情景にも見えるが、色調からくる自分の作り出す画面に思いがけないイメージの展開を探り出している。概念にとらわれず、自分の中に確かに在る記憶の断片を表現している。期待している。

(藤田 由明)

作意的でなく、日頃目にしている自然を自由に描き進めていくうちに、幻想的な静寂さの表現につながっている。色彩を極力抑さえ、冷たい色調の画面は心に安らぎを与え、見る者の心を慰めてくれる。真摯に立ち向かう制作姿勢が絵画性を高めていて魅力的である。

(三後 勝弘)

日常のありふれた洗濯物に絵画的な観点で命を与えるセンスは今後の制作に可能性と発展を予感させる。意図的にモノクロームの色調で統一され、中心のハンガーも深さを与えていて効果的である。また、画面全体に自然の空気感とみずみずしさを感じさせている。

(三後 勝弘)

三好 るり
瓏ROU・2018-WRATH I F100藤原 弘美 SUMMER JOURNEY
F100

中塚 将太 暁のエオンタ F50

黒い闇の中、色を持たず、隙のない形が構築されてゆく。構成を無意識した瞬間、高揚する感情のまま、色をたたきつけ、思いがけないイメージの展開を探し出している。自分の中に確かに在る、小宇宙を象徴として溶け込めばいい。次作が楽しみです。

(藤田 由明)

自分以外の共感、どうでもよい。あらまじしめて、いる白い部分は単なる空洞ではない。よく見ると消えてゆくものの残像をのこしているようにも思えるが、又、沸き上ってくるものなのか、ジッと見入った。次の作に出会いたい。

(藤田 由明)

オートマテイクな線をつかい、心象風景として表現している。それは作者のイメージの豊かさ、造形への情熱の深さを感じる。青赤緑の補色をバールルとしてうまく作用している。ところどころに垣間みえる平面も画面の緊張感を強めている。

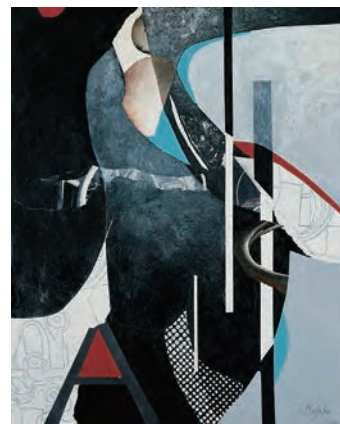
(三後 勝弘)

中塚 将太

103回展会場から——私の選ぶ作品寸評



津田 佐千子 山笑う日Ⅱ F100



西垣 雅子 las formas II F100

松嶋 美保子 流れる かたち
F100

大胆な構成で、曲線と直線が、うまく配置され、色彩もモノクロの中に、赤やブルーが、効果的に配置され美しくモダンな作品です。

(田川 絵理)

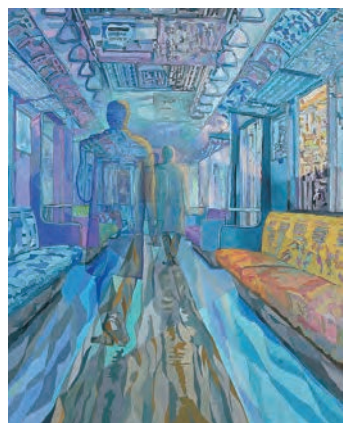
女性のいのちの美意識を形象化する営みを続けている。作者の身体運動であるドローイングでは100号キャンバスの前で世界を包摂する動きに相違ないのだが、動きの痕跡が枠内に納まってしまうジレンマがあったと思われる。今作ではその枠を乗り越える堅牢な意志と、いのち肯定感の潤いがみられる。

(田川 絵理)

松嶋 美保子



河野 眸 破壊 F100

柳澤 綾子 Image of scent No.2
S80

大槻 薫 Métro 18-2 F100

中央には黒い布を折り曲げて敷き、左右には皮かキヤンバスに複雑なマチエルで描き、白い糸で両方をつなぎ合せて、ダイナミックではと致しましたが、工芸的な要素があり、絵画としてはどうかかなとも思いました。

(佐野 明子)

河野 眸

デジタルな技法による描写が目まぐるしく、世情のなかで、独自の工夫によって空間の量感を把握するべく探索し続けている成果がここにある。画面の平面を破ってまで溢れ出て欲しい何者かの強い思いがこの探求を支えて来たのではないだろうか。着想の情熱が作品の息遣いとなってこその実りである。

(田川 絵理)

柳澤 綾子

電車の中の構成が、おもしろく、又色彩も沢山使っています。うるさくなくピンクとブルーがパステル調でやわらかく調和して、とてもよかったです。

(佐野 明子)

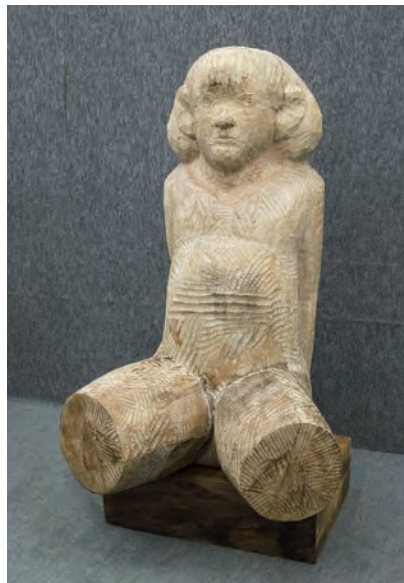
大槻 薫



会員賞 ジェイコブス ラダー
—報われないものへの賛美— 林 一平



ローマ賞 杣人(そまびと)
町川 和司



文部科学大臣賞 木偶2018—高原便り—
安田正子

受賞作品——制作の視点

文部科学大臣賞

安田正子

楠丸太を引き起こし、木挽き作業に取りかかる。一面また一面と。真っ直ぐで取り付く島の無い木の姿が少しずつ動き始める。そんな素材とのやりとりを重ねながら制作しています。かたち作られたものを疎ましく感じた時期もあり、今は作為無く素直に向き合いたいと思っています。

ローマ賞

町川和司

木は我々と共にいきている自然の素材です。空間と時間との対話の中で何を求め何を表現したいのか自問自答している。今も……今回の作品杣人は縄文のイメージ、生命感そして古代のおおらかな宇宙を表した。木との世界に出会えた事に感謝している。

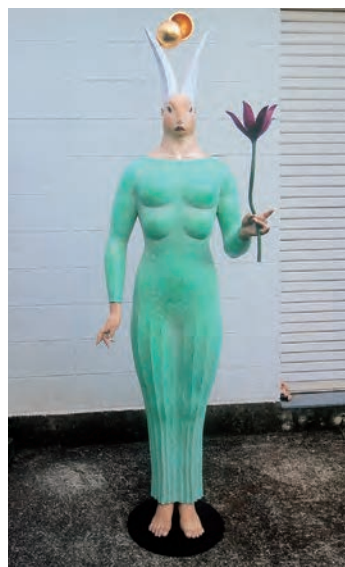
会員賞

林 一平

時代の流れを客観視していた自分に、年を重ねる度追ってささやく声が聞こえた気がする。「背負うもの、すぎるもの」「見知らぬ顔をするもの」「見知らぬ顔をするもの」目には写らない感じたものを作る。それが私の永遠のテーマかも知れません。



会友賞 光焰 長谷川 登



彫刻の森美術館奨励賞 鏡花水月
澤田 志功



会員賞 O'sora de Sampo "LEDA" 工藤 直

会員賞

工藤 直

古い神話、民話の世界を、いかに面白く現代風にアレンジできるか？ ダイナミックな動きがありながら、ちよつとポップでキツチュ、作ってにっこり、そして何より作品を見た人に、ほっこり楽しい気分になってもらえる立体を制作してゆきたいと思っています。

受賞作品寸評

彫刻の森美術館奨励賞

澤田 志功

擬人化したウサギの木彫である。ふくよかな身体から足元へスッと絞った形が心地よいのは、足の指先が軽く上がっているせいだろうか。作品の完成度は大変高く、作家として自分の世界をしつかり持っている。今後が楽しみである。

(島田 紘一呂)

会友賞

長谷川 登

鉄を素材として、計算された面構成で作り上げられ、確固たるフォルムを持つ大作を毎年出品している。今回の作品には、「自然のエネルギーに恐れ慄く自分がある」と自ら語る様に、フォルムを生かした抽象表現の中に情性を加味しようとする変化が見受けられ、今後が楽しみである。

(登坂 秀雄)



彫刻部 集合写真

彫刻部 総評

前田 耕成

9月4日、台風21号が関東地方接近という状況の中での展示作業、翌5日の第103回二科展のオープン、そして6日未明に起きた北海道地震。今年の夏の異常な暑さも相まって、自然の驚異に振り回された開催となりました。

彫刻部の展示点数は例年並みでしたが、展示スペースが昨年よりも130㎡ほど少なくなったせいで、室内展示では壁面を背負う場所で作品同士の空間が多少物足りないところがありました。可動壁の使い方や照明を効果的に使うことで、バラエティーに富んだ展示空間になったと思います。従来の彫刻概念から離れた様々な様式や多種の素材や色彩も要因なのでしょう。昨年コラボ展示で使っていた野外会場へ向かう休憩室は、巡回展の小品がスマートに並んでいます。小品だからこそ表れる作者の明快な個性が見られて楽しい展示となりました。

高層ビルが間近に迫る野

外展示場は、都会の異空間のようです。ここには石や金属を素材にした20点の作品が展示されています。室内展示と比べるとゆつたりしていて、個々の作品に集中できる環境になっています。ここでは人体をモチーフにした石彫が、この異空間に絶妙なポジションで存在していることに気づかされた。一方、無機的な形態の作品は大きさについて一層考えさせられたりもします。そして、自然光の変化や夜間の照明によって作品たちが、そのつど違った様子を見せてくれるのも楽しみの一つです。

恒例のギャラリートークは、それぞれ異なった素材を使う4名の出品者によって行なわれ、普段なかなか理解しにくい制作時の作家の内面や素材についての丁寧な説明が好評でした。

東京都美術館から国立新美術館に移って11年が経ち、展示環境の激変を何とか克服しながら現在に至りましたが、公募展である二科彫刻部は、これからも美術界の情勢に目を向けながら、少しずつ変化していかなければならないと強く感じています。

彫刻部 新会員紹介



千葉 伸子

初入選から今まで、作品のスタイルは随分変わりました。変わることの理由は、理想とする形が思うように表現できないからです。表現できるようにするために試行錯誤を繰り返しますが、その試行錯誤が現在の作品になっているのです。



本多 紀朗

私は、作品の持つ生命感を重視している。なぜなら生命感作品に魅力を与える大きな要素であり、作家の思いや生き様の表れである。制作を続ける事で新たな発見をし、感性も成長するだろう。それに伴い制作方法や概念、作品に対する考え方も変化していきたい。





熊本震災復興支援活動報告について

二科熊本支部支部長 木戸征郎

平成29年から今日まで、いろいろな形で支援活動を重ねて参りました。今回は、特に自然環境に恵まれた阿蘇郡西原村の山西小学校の児童を対象として行いました。内容的には、アクリルを使って描く大作(400号)の共同制作です。制作過程の中で特に印象に残っているのは、制作に取り組む目の輝きと時間を忘れる程の集中力、そして春夏秋冬の四枚の絵を仮組して完成させた時のあの喜びの顔があった事です。私達二科会のスタッフもほっとすると共に、今回の活動を通して、たいへん意義深いものであったと強く感じております。

今回の作品は、今後、地域の中心である小学校の玄関正面に展示されます。子供達をはじめ、多くの方々を、いろいろな面で末永く励ましつづけてくれる事と思います。最後になりましたが、二科会会員の皆様方をはじめ、関わってくださいました皆様方に心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



◆二科ショップ

作品集、絵葉書、受賞者名簿、二科エコバック、4部門会員の協力によるチャリティー寄贈小品、コラボ作品目録、参加作家缶バッジなどを販売するショップには、多数の来場の方がお立ち寄りくださいました。

◆チャリティー報告

今回から絵画部はチャリティー寄贈作品を色紙から手軽に飾っていただける額装付き小品とし、画材や手法が様々に見られる賑やかな壁面になりました。皆様のご協力により収益の全額を寄付することができました。このことをご報告いたします。

寄付金総額

- ・NHK厚生文化事業団 810,000円
- ・熊本市会計管理者 500,000円
- ・熊本市会計管理者 310,000円

2019 春季二科展 選抜出品予定者

- | | |
|---|---|
| 絵画部
(会友 縄井かつみ「神奈川」
星野 敦郎「新潟」
川畑 清美「鹿児島」
高木 陽「神奈川」
津田佐千子「石川」
的場五十彦「京都」
後藤寿美子「熊本」
大野久四郎「栃木」
葛西 裕子「神奈川」
芝田 満江「神奈川」
鈴木 文明「東京」
久田千恵子「愛知」
有澤 英子「石川」
井川 誠一「大阪」
池杉 拓海「神奈川」
石毛穂乃佳「千葉」
糸曾ひろこ「東京」
稲田 泰樹「静岡」
太田 臣一「東京」
大槻美実「茨城」
大西 敏志「神奈川」
大西 正昭「福岡」
大原 郁香「広島」
岡山 芳彦「茨城」
加藤 弘子「埼玉」
小原 祐二「神奈川」
須田ひろ子「山梨」
中澤 純代「東京」
島中 富雄「大阪」
松永 長信「熊本」
森 泰秀「佐賀」
吉元かつこ「鹿児島」 | 彫刻部
(会友 長谷川 登「東京」
藤沢 恵「埼玉」
町田 至「山形」
一般 澤田 志功「埼玉」
大坪 義武「静岡」
小野寺加奈「東京」
柴崎 益代「群馬」
玉田 真理「神奈川」 |
|---|---|



特選 とらべるそ 大坪義武



会友賞 しなやかなやつ 町田 至

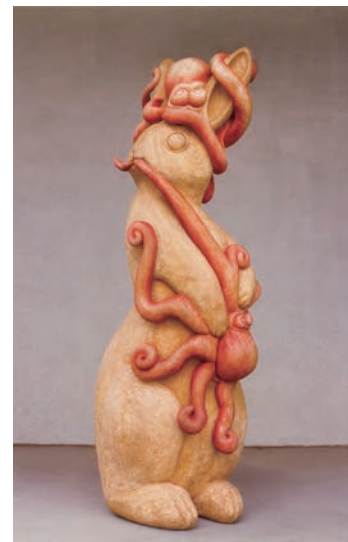


会友賞 揺らぐ境域 藤沢 恵

特選 大坪義武
「とらべるそ」とはイタリア語で横笛だそう。なるほど形の中にその魅力がいつぱい詰まっている。いくつかの指穴を木型で埋め込み、符号らしき英文字の流れは笛の音色が聞こえてくるようだ。コンセプトをしっかりと持った心を揺さぶる作品である。(藤巻 秀正)

会友賞 町田 至
H・2335m×W・2m×D・2m。
しかしこの仕事が大きさはその数値を超えるものだ。空間を抱え込む造形の効果は、我々に空間の重要性を喚起する。会場に流れる気流の捕捉に成功すれば、空間の意義の提示を越えたダイナミズムをこの仕事は示し得たであろう。(神田 每美)

会友賞 藤沢 恵
有機形態から無機形態への変化はどこに発するのか。逃避、脱出、あるいは新たな挑戦か。心と素材。自身の心と素材に潜む力をいかに融合させるか。作者の内側に浮かび上がった境域という言葉の反芻が、この二つの要素を作品へと昇華させる過程に期待して見よう。(二ノ宮 裕子)



新人奨励賞 耳タコ 玉田 真理



特選 風の詩 柴崎 益代



特選 プライド 小野寺 加那

新人奨励賞 玉田 真理
展示会場に何か不思議な空気が漂う所があり、其処に玉田さんの作品があります。作者本人はとても控えめで清楚であるが、俗なたとえ話を取り上げ制作のテーマにする等、意外性も持ち合わせる女性である。とても丁寧な仕事ぶりの木彫であるが、その情熱が造形性と乖離している点が残念な所ではある。(小田 信夫)

特選 柴崎 益代
顔の丁寧な肉付けと体の簡略化された表現に違和感がなく、また紙の素材の清潔さと逆に素材を感じさせない密度のある作品です。三体のポーズの違いにやや気負いを感じますが、題名に相応しい気品のある風を感じます。(豊田 晴彦)

特選 小野寺 加那
突っ伏して屈辱に苦悶するかの様な青年像、いつたい彼に何があったのか。下顎と頭部、右手の大きさなど不確な部分はあるのだが、作者の持つ大胆さゆえか、それを気にさせない異様なエネルギーを発つ。力作という言葉がよく似合う。(佐々木 至)

9月8日・9日・15日・16日 絵画部ギャラリートーク 4会員がそれぞれ選ぶ作品の解説・鑑賞のポイントを語る



9月8日 粕谷会員



9月9日 西理事



9月15日 齋藤会員



9月16日 今村会員

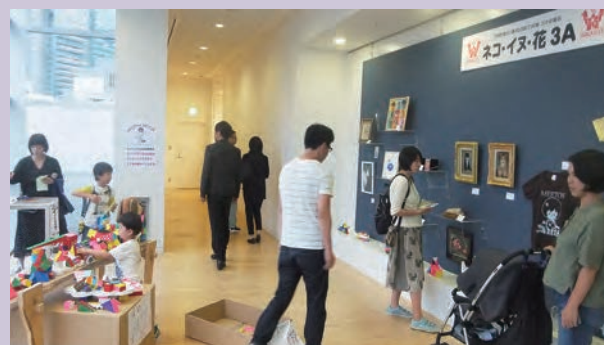
9月7日・14日 ナイトミュージアム 夜8時まで開場



野外彫刻ライトアップ



9月14日 ミニコンサート ルーチェ・ストリング カルテット



第103回
二科展コラボ展示
テーマ「ネコ・イヌ・花」



2,661人のアンケート回答をいただき、4部門代表の抽選で59人の方に作品をお送りしました。

好評のうちに定着した4回目のコラボ展示は会場が1、2、3階休憩室へと範囲が広がり、会場誘導・周知のための新企画を実施しました。

3階の犬テーブルに用意した触って遊べるカラフルな積み木は、3階の展示の良いアクセントになって、楽しい空間となりました。

スタンプラリーの集計は延べ4,700人。3Fのゴールでは景品引き換えの行列ができ、コラボ缶バッジと絵葉書の2種類の景品を切り変えるなど想定外の盛況となりました。

参加4部門会員、123人、171点。コラボ作品集冊子、絵葉書、32名38種の作家缶バッジを作成。参加作家や会場係が上着につけた缶バッジでコラボ展示を盛り上げていました。

9月5日 10:00 オープニングセレモニー



左より
一般社団法人二科会写真部 近藤誠宏 理事長
公益社団法人二科会 彫刻部代表 菅原二郎 常務理事
NHK厚生文化事業団 鈴木賢一 理事長
公益社団法人二科会 田中 良 理事長
国立新美術館 青木 保 館長
一般社団法人二科会デザイン部 田野 勝 理事長



NIKA
103rd
2018
event
memo

9月5日 14:00～ 授賞式 3階講堂



田中理事長挨拶



内閣総理大臣賞 黒川 彰夫



文部科学大臣賞 安田 正子

9月5日 18:00～ 懇親会 ザ・リッツカールトン東京



会友推挙の皆さん



黒川京滋支部長を囲んで

9月5日 作品研究会 12:00～14:00 1・2・3階展示室 各会場の担当会員が作品の実践的な講評・研究会を行なった



木戸監事・古保木会員



三後会員・米田会員

9月9日 彫刻部ギャラリートーク



岩崎会友



野外会場風景



町田会友

絵画部の展示と出品の誘い

～絵画展示の変遷と現在の展示状況・陳列から展示へ～

1 何を変え、変わったか

絵画部の会員は約150人・会友約250人と、この20年大きく変わっていませんが、入選者は東京都美術館と上野の森美術館での80回は約1,000人、90回850人、国立新美術館に移ってからは約700人を展示しています。これは出品者減により入選数が減ったのではなく減らしたのです。国立新美術館に移転の際、大幅な展示改革に踏み切りました。

- ①会員の作品をF130号から、現在は上限壁長3.5mにサイズアップし、展覧会自体をスケールアップ
- ②一般・会友の規約をF50号～F80号を2点出品すれば、F100号までを含め計6点まで出品可に規約変更し、入選者50号中心から100号中心展示にスケールアップ
- ③展示面積は移転前に比べ約2倍になりましたが、入選数を約150人分減らし厳選としました。一年かけて制作しながらも選外となる出品者には残念な思いをさせる苦渋の選択ですが、入選した人の展示環境は飛躍的に改善しました。

- ④2点入選の大幅充実
都美館時代、会友や一般の2点入選はほんの数人でした。現在は会友100人、一般50人の2点入選目標を掲げ、展示密度が深まり出品奨励になっています。
- ⑤2段掛けの削減
都美館時代は一般入選はほぼ2段掛けでした。現在は極力2段掛けを減らすよう配慮しています。
- ⑥新人奨励室を設置
会場内に次世代への息吹を感じさせる展示をしています。
- ⑦具象部屋や抽象部屋、新会員壁面、第9室の歴史の流れを汲む部屋を設置、それぞれの主張や特質を持つ展示を心掛けています。
- ⑧作品間隔の確保
- ⑨休憩室を特別展示空間へ
各階の奥に休憩室がありますが、コラボ作品を展示し展覧会に膨らみを持たせています。
列記した改善等により、厳選の痛みは伴いましたが、入場者も約5万人から倍の10万人に増え、美術界全体からも作品や展示の質の向上に対する評価は高まったと自負しています。

絵画部 展示状況変遷表

			展示人数	2点入選	展示改善状況
移転前 展示面積2,930㎡ 東京都美術館 上野の森美術館 総展示数1247点	90回	会員	149		会員は130号まで
		会友	244	2	会友・一般の2点入選は数点のみ
		一般	854	0	一般入選は大部分は50号、100号は100点のみ
		合計	1,247人	2人	2段掛けは500点以上・作品間隔少ない
国立新美術館 移転後 6,000㎡ 総展示数1265点	103回	会員	160		会員は3.5m以内の大作
		会友	252	98	会友・一般は100号中心
		一般	694	59	会友・一般の2点入選を大幅に増加
		合計	1,106人	157人	2段掛けを減少・作品間隔を確保

◆出品ガイド
二科会では支部活動や会員のいない地域の出品者にアドバイス担当会員を設け勉強会等を企画し、応援体制を充実させて参ります。一点一点を輝かせ、作品の質に対して公平な審査と展示をする二科展に是非挑戦してください。

■二科展複数部門の出品についての四部門統一見解
デザイン部からの提示
「現在、デザイン部の出品者で他の部門にも出品しているメンバーがありますが、二科展内で重複して会友や会員になる事について、問題はないのか」という質問に対し、公益社団法人二科会の理事会で検討され、四部門協議で話し合われた結果、四部門の統一見解として「会費の負担はあるが、認可する」旨の確認が行われました。



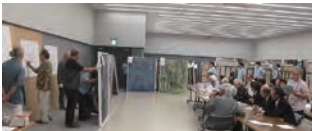
展示日集合

2 展示はだれが、どのように決めているか

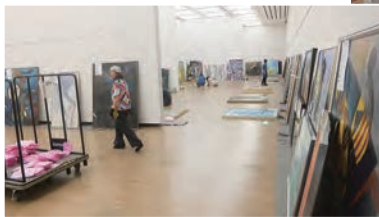
会として彫刻部同様、展示委員会があり、会議を重ね、綿密に壁長計算し展示計画を立てています。
展示日には会員全員で階ごとに担当を決め、一点一点が引き立てあうように配置調整をしています。

3 絵画部の展示基本方針

絵画部は1階会員・会友、2階会友・一般、3階一般を中心に展示の骨組みを作っています。これは権威づけやヒエラルキーというネガティブな発想ではなく、公募団体は作家同士の相互研鑽の場であると同時に、育成組織であるという理念から、向上心や出品意欲を触発する展示空間を心掛けています。良い作品、良い審査、良い展示が一体となることが魅力ある展示になるのは自明の理です。
国立新美術館に移転し10年以上たちましたが、マンネリズムに陥ることなく、移転時の熱意をもって二科らしい展示を目指していきたいと思います。
4部門とも出品者を奨励し良い展示を目指すには、少しでも壁長や展示スペースを増やしたいのは共通した切実な課題です。会全体の運営面からも検証しながら、協力し合い改善策を模索していきたいと思います。
(文責：展示 香川・中島 総務 松室・山中)



部屋割り選別



展示作業



第103回二科展を終えて

一般社団法人二科会写真部 理事長 近藤 誠宏

第103回二科展が盛況裡に終了したことに、先ずはお祝いとお礼を申し上げます。
今年度から一般社団法人二科会写真部の理事長に就き、今回、初めて9月5日のオープニングセレモニーに参加させていただき、大変清々しい気持ちでテーパーカットをいたしました。田中良理事長をはじめご出席の皆様にお礼申し上げます。
9月4日には、展示作業に立ち会いました。限られた展示壁面において、毎年増加する会員・会友数と入賞・入選者数の割合を再考しレイアウトを見直し、入賞・入選者数を昨年より増やして1,421点の作品を展示しました。これだけの展示数にもかかわらず作業は的確かつスピーディに行われ、短時間で整然とした展示会場に仕上がりました。展示全般の作業運営や照明、壁面作りなどの関係者、そして、手伝いに参加された東京 神奈川、千葉、埼玉の会員・会友の

方々のお陰と、撤去作業ともども感謝しています。
連日、熱心な来館者に溢れる展覧会場では、家族連れも多く見られ、コラボ展示のスタンブラリーを楽しんでいる様子が、ほほえましく思えました。コラボ展示は、年々内容も充実し、実験的な面白い作品も興味深く、重厚感のある本会場の作品を鑑賞した後のコラボ展示作品は、気持ちを和ませてくれました。コラボ展示委員会の皆様のご尽力に敬意を表し、来年も新たなアイデアで楽しませてもらえるものと期待しています。
写真部では今年、公募展のマンネリ化を避け、写真表現の可能性を拡げるコンセプトのもと、一般公募に「アートフォト部門」を新設し、写真の既成概念から解放された自由な発想とイメージによるクリエイティブな作品を募集しました。お陰様で、展覧会場では好評をいただくことができ、今後の新たな展開に希望を抱いているところです。



第103回展を終えて

一般社団法人二科会デザイン部 理事長 田野 勝

先ず、第88回展より15年の長きに亘り、デザイン部運営の長として携わって来た今村前理事長から不肖私、田野が受け継ぐことになりました。引き続き今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。誌面をお借りしましてご挨拶申し上げます。
この103回展はデザイン部が新体制として昨年の反省も含め、緊張感をもって取り組みました。組織の見直し、審査手順や展示等に関わるA・B・C・D各部門の整理、画集の表紙の変更等々…。
A部門は従来通り自由テーマのポスターで、B部門はイラストであったのを特別テーマ部門にし、C部門にイラスト、D部門のマルチグラフィックを小型グラフィックに変更しました。そのことによりA・BはB1サイズ、C・DはB2サイズと整理も出来ました。そのような基本的な洗

い直しも含めて、意識を高めより良い展覧会になるよう努めて行きたいと考えています。
また、デザイン部ではB部門の特別テーマの重要性を考えており、デザインナード参加型として力が試される部門であるだけにアイデアを駆使した出品作品を期待しています。
今や広告業界はネットによる情報提供より、顧客の購買動向が大きく変化していることはご承知の通りです。その結果、様々なところに波及拡散しビジュアルデザインの世界でも、デザインナーを養成する教育機関、ペーパーレスによる製紙会社や印刷関係等…デザインナーの住みにくい環境になっています。
デザイン部の今後の課題はイメージに特化したビジュアルアートの中から更なる可能性を模索し、より斬新な作品を求めていくよう心がけたいと考えます。

計報

彫刻部名誉理事

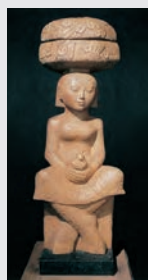
細井 良雄氏



二〇一八年九月二十九日逝去
享年87歳

略歴
一九五九年 第44回展特選
一九六一年 第46回展会友推挙
一九六三年 第48回展会友推挙
一九七〇年 第55回展 会員努力賞

一九七五年 第60回展記念賞
一九八〇年 第65回展ローマ賞
一九八六年 第71回展 文部大臣賞
二〇一二年 名誉理事就任



生へのおもい S100
第95回記念展出品作

■平成30年度

地域文化功労者表彰

田中良理理事長・西健吉理事が、洋画家として優れた活動を行うとともに、公益社団法人理事長・理事を務め、芸術文化の振興に尽力されたことにより、その功績をたたえ文部科学大臣が表彰する「地域文化功労者表彰」を受けられました。

計報

絵画部会員

太田 京子氏



二〇一八年八月二十五日逝去
享年74歳

略歴
一九五五年 第80回展初入選
二〇〇二年 第87回展特選
二〇〇八年 第93回展会友推挙
二〇一〇年 第95回展会友賞
二〇一七年 第102回展会員推挙



景2 F100
第102回展出品作

■トピックス

・絵画部の入選最年少は、石毛穂乃佳さん16歳(千葉)。初出品・新人奨励賞です。応募最年長で入選された塩田孝子さん97歳(千葉)、坂田敬一さん91歳(茨城)が初入選。受賞最年長は特選の松永長信さん82歳(熊本)。長寿社会にあつて意欲ある挑戦を歓迎し、益々の活躍を期して、お祝い申し上げます。・彫刻部の入選最年少は、吉川裕俊さん(新潟)24歳。入選最年長は、高石育子さん(千葉)83歳でした。

事務局だより

平成が最後の年となった今年は日本歴代最高気温(41.1度)を記録する酷暑、豪雨、台風等、災害の影響を各地で受けた夏でした。特に北海道胆振東部地震は第103回二科展初日の翌朝の事で、不安や心配の中での始まりとなりましたが、入場者は増加で盛況の内に終了いたしました(表参照)。全国応募の二科展に、35の二科支部が存在していますが、地盤の弱い地方の応援として北海道、東北、中国・四国が上げられ、平成24年に担当理事制が発足。5年間を一つの目安との理事会承認を得て、東北連合

表2

搬入点数	103回展(昨年比)
絵画・一般	2,479点 (91減)
絵画・会友	1,014点 (63減)
彫刻・一般	52点 (3増)
彫刻・会友	32点 (1減)
合計	3,577点 (152減)

表1

	入場者(昨年比)
一般当日	5,551人 (86増)
前売り券入場	4,527人 (2,406増)
高校・大学	789人 (18増)
チラシ割引	629人 (6減)
チケットぴあ	141人 (7減)
団体割引	21人 (56減)
企画割引	67人 (21減)
新聞社優待券	2,458人 (54増)
有料入場者	14,183人 (2,338減)
無料入場者	82,376人 (7,397増)
入場者合計	96,559人 (5,059増)

表3

展示(道庁含む)	人数(昨年比)	点数(昨年比)	35才以下出品者数(昨年比)	35才以下応募・在籍数(昨年比)
絵画・一般	694名 (11減)	753点 (14減)	48名 (13減)	56名 (12減)
絵画・会友	252名 (7減)	350点 (19増)	7名 (±0)	8名 (1減)
絵画・会員	162名 (4増)	162点 (4増)	—	—
彫刻・一般	45名 (2増)	45点 (1増)	11名 (±0)	11名 (±0)
彫刻・会友	32名 (1減)	32点 (1減)	3名 (1減)	4名 (±0)
彫刻・会員	47名 (2減)	55点 (3減)	—	—
展示合計	1,232名 (15減)	1,397点 (6増)	69名 (14減)	79名 (13減)

展支援も4年目になりました。この間、担当の先生や出品者の努力により東北地方は入選者、受賞者、会員会友推挙者も生まれ活気づき、この好結果を得て、一昨年から北海道を、本年度は四国の応援準備が進んでおります。また絵画部会員の数ゼロの14県にも応援体制の検討がなされています。館内では外国人来館者に向けての案内表示を進めておりますが、二科会メンバーや出品者の中には英語・韓国語・中国語に堪能な方も多く頼もしい限りです。

二科展ドットコムは、時代の流れに合わせて会員・会友作品のギャラリー頁と受賞作品頁を各部のHPで行う事となり、四部管理から公益社団法人二科会が一括管理する事となりました。この一括管理の中では引き続き四部の入選者統計、推挙者・受賞者・入選者一覧、巡回展だよりを掲載いたします。受賞作品頁は四部掲載から絵画・彫刻部掲載となる為、リニューアルして更に充実する事となります。

七回目となった被災地児童共同作品展の前では、関東在住の西原村の出身者が集合するなど、会場でも然、世代を超えた新しい出会いも生まれました。

元号が代わっても、自然が猛威を振るって来ても、二科展が魅力的であり続ける為には、四部の作家の作品に対する情熱とアートの持つ魅力とが展示空間で相俟って花開く事に加え、二科展に携わる多くのやさしい心が益々大切になっていくのだと思います。

事務局長 埴珠世

編集後記

◇搬入受付から審査、展示つり込みまで、全会員は役割分担をもって、開催準備期間をバックヤードで動いています。より良い審査、より良い展示の在り方を常に目指して。◇展覧会会場は会の基本的な理念を具現化しています。展示点数の多い絵画部は、3階にわたる展示空間の充実と、新美術館の飛躍的に改善された展示環境を生かす改革がされてきました。彫刻、絵画で共有する1階の会場空間の協調を希求し、先号、彫刻部展示に続き、絵画部の展示を特集しました。◇今後、出品の皆様にも二科展について分かり易くお伝えし、出品の意欲につなげていただけるよう発信してまいります。

編集委員

委員長(総) 野村 みそら
委員(総) 尾川 絵理
" " " 谷崎 ゆき子
" (彫) 尾崎 久
" 廣瀬 貞久
" 宮澤 友彦
" 澤光 造

平成三十年十一月二日発行

公益社団法人 二科会

〒100-0022

東京都新宿区新宿4-13-15

レイフランド新館501号室

電話 03-3335-4664

FAX 03-3335-4768